

神戸市会 会議録

2007.10.10 : 平成 19 年決算特別委員会第 1 分科会〔18 年度決算〕(教育委員会) 本文
(一部抜粋)

72 : 分科員(北山順一)

分科員(北山順一) それでは、私から質問を 3 点させていただきたいと思います。

まず、学校選択制についてお伺いをいたしたいと思いますが、今までたびたび学校選択制の採用ということについて申し上げてまいりました。政府の方の教育再生会議でもこのことは大変議論されておりまして、教育バウチャー制度というものを導入しようという意見が非常に強くなっております。こういうのは安倍総理の時代から、これはやろうということで随分力を入れておる制度であります。これまさに学校選択制の導入そのものであります。このことを今まで私たちは何回も言うてきたんですけども、教育委員会の事務局では、これはもう今まで学校選択制という言葉については、いつも否定的な見解を述べてきていただいております。いつもそういうふうにご否定をしておりますけれども、教育委員会そのものでこれがどれだけ議論されたのか、議論されて否定しておるのか、議論もせずにご否定しておるのか、このことが問題だと思っておるんですが、須藤教育委員長さんにその点何回したかということをお伺いしておきたいと思っております。

次に、市立幼稚園の私立幼稚園の移管についてお伺いをいたしたいと思っております。

本市では公私連携により、幼児教育を今まで大変力強く進めてきた歴史があります。私立幼稚園は特色のある教育を進める一方、保護者のニーズを的確にとらえて、サービス面でも充実を図っております。そのため、少子・核家族化が進む中、園児数の約 85% は私立幼稚園へ通っております。本市のいろんな財政状況を考えたりあるいは地域性を考えてまいりますと、西・北神にある公立幼稚園、これはこの公立幼稚園にかわる私立幼稚園が周辺にないんですから、それまで私立に変えてしまえとは言いませんけれども、変えられるところはたくさんあります。46 園の中から変えられるところはたくさんありますが、それを私立に変えていくべきだと、こういうふうにご思っておりますが、そのご見解をお伺いいたしたいと思っております。

それから、もう 1 つは、これは午前中にも審議がありました。ピエンナーレということについての審議がありました。このピエンナーレというのは、神戸市が今まで、アーバンリゾート都市だとかあるいはファッション都市だとか、アスリート都市だとか、いろんな都市づくりを掲げてまいりました、その集大成がこの神戸デザイン都市づくりであります。そういうことを考えてまいりますと、このピエンナーレは神戸市挙げて、オール神戸市でこれは対処していかなければならないものだと、こういうふうには思っております。こういうことを考えていきますと、午前中の答弁では国際文化観光局がそれぞれの学校や小学校・中学校に連絡して、来てくださいうようなことを言うとうでしょうとうような、何かよそごみみたいなこと言っておりましたけれども、これは中学校で今やっておりますトライやる・ウィークというのをやっていますね。あれと同格ぐらいの力を入れて、小学生・中学生・高校生にこのピエンナーレを見に行ってくださいと。そして芸術・文化というものに触れてくださいと、そういうチャンスを与えるんだと、

そういう姿勢で私は取り組むべきだと思うんです。国際文化観光局は言おうと言おうまいと、教育委員会はそう取り組むんだと。それくらいの取り組みをしたって、私は間違っただということには絶対ならない。神戸市挙げてやっておるこのビエンナーレに教育委員会は全力で取り組むべきだと思いますが、いかがでしょうか、お伺いします。3点です。

73： 小川教育長

小川教育長 まず、学校選択制の関係でございますけども、これの点につきましては、何回か本会議等でも答弁をさせていただいたところでございまして、その辺についての考え方が変わっているわけではないわけでございますが、特にお話のございました教育委員会会議の中で議論をしたかどうかという点でございます。本格的に 前も申し上げましたけども 議題に上げて議論をしているわけではございません。ただ例えば昨年も指定外通学制度、こういうようなものを拡充を、弾力化も含めて図りました。そういうような中で、委員の方から、今お話のございましたバウチャー制度の話と、こういうようなものが地域に対する影響というのがどうなんだろうというようなお話でありますとか、また私ども教育再生会議の動向につきましては、委員会の中でそれぞれ報告をしております。第1次の報告、第2次報告等詳細に報告をさせていただいておるわけでございますけども、そのような中でも同じように教育バウチャー制度、これは次の第3次の報告の中のテーマということでございますけども、そういうようなことにつきましても触れてございまして、この辺につきましても同じような趣旨でございますが、委員の中からお話等も出てきておるところでございます。ただ本格的にそれについて、学校選択制について、その中でしっかりと議論はというか、そういうことを今の段階でしているわけではございません。そういうような状況でございますが、今後の第3次答申、そういうようなものも年度中には出てくるわけでございますから、そういうようなことも踏まえて議論をしていきたいというように思っておるところでございます。

それから、ビエンナーレのお話でございます。先ほども少し答弁させていただいたわけでございますが、このビエンナーレ、お話のように、今の神戸がデザイン都市という大きな目標を掲げて、全市的にそういうような都市づくりに取り組み始めておるわけございまして、このビエンナーレというのも2年に1回、その総合芸術祭として開催されるわけでございますけども、そういうようなデザイン都市の一角を担う大きなイベントであるというようにも考えてございます。ビエンナーレは、これもできるだけ多くの小・中・高生に来場してもらおうということで、これは無料ということになってございます。また中でも、例えばアートで楽しい創作おもちゃ展でございますとか、子供絵画展、そういうような子供向けのイベントといたしますか、そういうようなものも随分入れておるということでございます。私どもとしまして、団体見学を予定している学校も現在では幾つか出てきてございますし、子供絵画展に市内の小学校から随分たくさんの方の応募をするなどしてございます。お話のように、特に新しい感覚といたしますか、革新性も持ったそういうような取り組みがさまざまな形でなされていくわけでございますから、次代を創造していく子供たちにぜひともビエンナーレを通じて、豊かな感性でありますとか情緒でございますとか、そういうようなものを身につけていってほしいというようにも思っております。

おっしゃいますように、全庁的な取り組みということでございます。委員会といたしましても、さらなる連携・協力を図ってきたいというように思っております。組織委員会といたしますか、事務局とも

さらに具体的な協議といえますか、そういうようなものもしてまいりたいと思っています。

私からは以上でございます。

74： 山本教育委員会事務局参事

山本教育委員会事務局参事 幼稚園教育の方でございます。

先生ご指摘のとおり、神戸市では公立・私立の幼稚園が協調いたしまして、幼稚園教育を支え、全国的に幼児教育を先導してきた経緯がございます。例えば昭和39年には公私幼稚園の連携の協調のもと、5歳児全員就園体制の方針を打ち出しまして、公立幼稚園は希望するすべての5歳児を受け入れを行いまして、私立幼稚園では2年、3年保育を希望する幼児の受け入れを行うことなどによりまして、本市の幼稚園教育は充実・発展してきたところでございます。

一方で、少子化、核家族化が進展する中で、早期に幼児教育を望むというような市民の皆様方の中の声、傾向が強まりまして、公立幼稚園におきましても2年保育の実施が求められるようになってまいりました。その一方で、園児数 公立幼稚園でございますが 減少し、全体的にもそうですが、園によっては集団保育の効果が十分達成できないなどの課題があったことから、平成7年度から15年度にかけまして、主に市街地の幼稚園で統廃合を実施いたしまして、適正規模 おおむね20人以上でございますが

の児童数を公立幼稚園確保するとともに、公立幼稚園全園において2年保育を導入したところでございます。これによりまして、70園ありました公立幼稚園は現在46園になってございまして、1人当たりの園児数も、平成7年度の平均42人から15年度には73人に増加してございます。集団保育に必要な一定規模の園児数を確保するとともに、できるだけ効率的な運営を図ってきたところとっております。

現状でございますが、少子化の進展に加えまして、共働き家庭の増加というのがございまして、保育所に通う子供様が年々ふえるなどしまして、19年度の私立幼稚園全体のあき定員は4,300人でございます。ただ人口が急増してございます東灘、灘、中央、西区の一部などにつきましては、ほぼ定員いっぱいとなっております。

一方で、公立幼稚園でも4歳児、定員制とっておりますので、抽せんとなっているところが毎年10園程度でございます。さらに先ほど申しましたように、市街地の公立幼稚園では15年度まで70園から46園になるというような統廃合により、何らかの見直しをしてきたところでございます。そうはいいましても、今後ますます幼児人口が減少する状況がございます。公立幼稚園、私立幼稚園、それぞれの連携・協調のもとに、幼稚園教育の振興・充実を図る上で、幼稚園人口の推移、公私の適正な配置等を勘案しながら、公立幼稚園のあり方を検討する必要があるとは考えてございます。特に小規模園につきましては、それに加えて集団保育の観点、また効率的な運営の面からも検討する必要があると思っております。

以上でございます。

75： 分科員（北山順一）

分科員（北山順一） まず、学校選択制についてお伺いしたいんですが、この学校選択制がいいのか悪いのかということについても、当然教育委員会で議論すべき問題だと思うんです。今まで過去5年間の教

育委員会の議事録を全部見せてもらいました。このことが、先ほど教育長が述べられたようなことが言われておりますのは、この平成 18 年 10 月 24 日の委員会でのことだけであります。この 5 年間でこのときだけなんです。ある委員が、指定外の変更理由はよく考えられて、よく対応しておると。だけど最近よくマスコミで取り上げられているパウチャー制度があるが、影響を受けた保護者が自由に選択できるのではないかと行ってきたら、どう対応するのかという質問をしておりますね。それに対して、部長さんはいろいろ工夫をして今日まで対応してきておるんですと。事務局としては今のところ学校選択制は考えていない。事務局が考えるんですか、これは。教育委員会で考えてもらいたい。事務局としては学校選択制は考えておりません、それで終わりですか。そんなんで本当にいいのかということを私は申し上げたい。教育委員会は形骸化しておるのではないかとことを私申し上げたい。そのことについてお伺いしたいと思います。

それから、このピエンナーレについて、今教育長おっしゃったように、神戸市挙げて今これやっておる事業ですし、このピエンナーレのやっておる事業そのものが、小学生・中学生・高校生にとっては非常に感動を呼ぶような事業だと。神戸市もそういう事業なんだという取り組みでこの事業をやってきておるわけなんです。こういうふうにやっておるこのピエンナーレについて、そういうのに参加する学校もだんだんふえてきつつありますということではなくて、全学校が行こう、小学校全部行きましょう、中学校行こう、高等学校も見に行こうと、そして感動しようというふうに行くべきだと私は思うんですが、その消極的ではなくて、積極的に私は取り組むべきだと、こういうふう思うんですが、このことについてももう 1 度ご答弁いただきたいと思います。

それから、幼稚園の教育について、70 園の幼稚園を今 46 園まで努力して持ってきたと。各幼稚園も平均で 40 数人になってきたと。このことについてもよくわかっております。よくわかっておりますけれども、ほかに代えがたい、ここを閉めたらほかに行くところなくなってしまうというところは別なんです。あの保育所だって、何にも順調にやっておる保育所ですけれども、民営化していこうと。民間でやってもらおうということで、保育所だっただんどんやってもらいよるんですから、この幼稚園だっただその方向へ持っていくのが、私当然だと、こう思っておるんです。西北神の代えがたいところまでは絶対言ってませんよ。だからそこのところをもう 1 度ご答弁いただきたいと思います。

76： 小川教育長

小川教育長 学校選択制の議論の関係でございますが、教育委員会に諮ります場合に、議題といいますか、議案といいますか、そういうようなものとして上げる場合につきましては、もうその時点での意思決定といいますか、そういうようなものが必要になるわけでございまして、そういうようなものとしては今の段階で考えていないということでございます。ですから今の中では、間接的にそれに付随したお話等があるときに、話として議論もするというところでございます。

また、先ほど申しましたけれども、第 3 次の報告が出た段階では、これは多分まとまったものとしてのそういうようなものが出てくるんだろうというように思っておりますから、そういうようなものも受けながら、これは議題ということにはならないかと思っておりますけれども、委員同士で自由にその話をするというようなことも、これはいろいろなその時々テーマといいますか、そんなものを中心にしながら、例え

ばほかの学識経験者を呼んで話をしたりとか、委員同士で話をしたりとか、いろんな機会がございますので、そんなことも活用しながら議論をしたらどうかというふうに私自身は思っています。

それから、ピエンナーレの関係でございますが、先ほど申しましたように、子供たちには積極的に、やはりこういうような機会がございますから、参加をしてほしいというように思っています。学校でまともってということも、もちろんあるわけでございますし、これも大事なことだと思っておりますけれども、先ほど申しましたように、やはり今、家庭の問題もいろいろ先ほど来言われておるわけでございます。特に親子とか地域とか、そういうような中でみずからといいますか、そういうようなことも含めて積極的に、やっぱりこういうようなものに参加していくといいますか、そういうようなことも非常に私は大事なのではないかと。全体的に画一的にやっていくということも大事でございますけれども、今の時代の中でいろんな多様性といいますか、そういうようなものを子供たちが経験していくということも大事なのではないかなというようにも思っております。そんな機会にぜひともさせていただきたいというように思っています。

以上でございます。

77： 山本教育委員会事務局参事

山本教育委員会事務局参事 ちょっと舌足らずで申しわけございません。私立幼稚園の認可権につきましては兵庫県にございまして、公立幼稚園を私立幼稚園に移管する場合、兵庫県の認可が必要でございますが、全市的に見て、先ほど申しましたように、私立幼稚園の定員で4,300人のあき定員がございまして、新たな認可は難しい状況にあるというのが現状でございます。

以上でございます。

78： 分科員（北山順一）

分科員（北山順一） 1分だけやからもう簡単に申し上げますが、新たな幼稚園を認可してもらってやったらどうだと、こういうふうなこと言っておりません。そののところ、よく知っといてください。さっきから申し上げておる、周りのその幼稚園に全部分散するんですよ、それはね。だからそういうふうなやってもらったらいいと思っております。

それから、学校選択制についても、私はこの中央区の子供が西区のあの小学校へ行きたい言うとうからあそこへ行かせたらええやないという、そういう選択制を言うとするんじゃないんです。形で言えば、広島市がとっておるような隣接校の同じ行政区の中で行ってもらおうとか、こういうふうな方法もあるんです。いろんな方法があります。いろんな大都市が学校選択制を取り入れているところもあるし、しないと言っておるところもあるんです。けれども、私は最終的には教育委員会が考えてもらいたいと、こういうことを申し上げて、終わります。